

<基本情報>

所在地：南九州市
年齢：30歳（R3.4就農）

<経営概要>

品目：露地野菜
面積：白ねぎ 3.5ha、ブロッコリー 10a



白ねぎ

<就農のきっかけ>

いろんなことにチャレンジしたいと考え県外で就職したが、鹿児島県に戻り漁業に就いた後、農業関係機関に数年間勤めた。

自分の性格に合った一次産業である農業を通じて地元を盛り上げたいという思いが強く、農業関係機関に勤めながら準備を進め、令和3年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

<就農時>

- ・狭い畑から始めることになったため、畑の広さに適した作物を検討した結果、白ねぎを栽培することとした。
- ・当初は知人にトラクターを借りていたが、その後、資金を借りて必要な機械を購入した。
- ・農業技術は独学で、インターネット等で調べた。

<現在>

- ・市場や一般小売店（スーパー、物産館等）との取引が増えている。
- ・収穫時には人手が不足するため、いかに作業を効率的に進めるか工夫している。また、今までの経験をノートに記録しており参考にしながら農作業を行っている。



白ねぎのほ場

② これまで苦労した点

- ・親は農業者ではなく、農家の知り合いもいなかったため、相談する相手も少なく、狭い畑しか借りることができなかった。
- ・資金繰りや納税に苦労した。
- ・収穫時に人手が足りず、求人を出しても見つからなかった。
- ・台風の被害を受け、ねぎの葉が折れ一部の畑が全滅した。また、軟腐病が発生した時に農薬散布の適量が分からなかった。
- ・機械の保管倉庫や作業小屋が見つからず就農後に情報を集め今は農作業に適した場所を借りている。
- ・最初は失敗の連続で問題に直面するたびにインターネット等で調べて対応した。

③ 就農して良かった点

- ・地域で自分の存在が認知されてきたこと。
- ・過去の営業経験が活かされ、取引も順調である。
- ・「若いものが頑張っているので土地を貸そうか」と声をかけてもらったり、いろいろアドバイスをもらえるようになった。

④ 今後の目標

- ・将来は法人化して、南九州市を盛り上げていきたい。
- ・スーパーとの取引が増えてきたので、作付面積を増やして従業員をもっと雇いたい。
- ・白ねぎの収穫は10月から翌年6月までなので、夏場に栽培できる作物を増やしたい。
- ・南九州市にねぎのブランドを作りたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・就農前の準備、学習は重要である。見切り発車せず、農業をやっていく環境を整えた上で就農することを勧める。
- ・地域では多くの方と知り合いになること。自分は地域の繋がりで畑や機械を借りることができた。
- ・農業を営む上でも、農業以外の知識がいろんな面で活かされる。
- ・経済的な面（収益、経営等）にも目を向け、将来の計画を立てることが重要である。

<基本情報>

所在地：伊佐市
 年齢：41歳（H30.1就農）

<経営概要>

品目：水稲
 面積：主食用 6ha、WCS 5ha、
 飼料米 1ha、飼料作物 6ha



フレールモア

<就農のきっかけ>

埼玉県出身で東京から鹿児島へ移住。IT関係の仕事に従事していたが、35歳の時に退職し、未経験ながら夫婦でできる農業を始めることを決意した。

東京での就農相談会で知り合った鹿児島県の関係者から、伊佐市の離農予定の方を紹介され、移住を決めた。移住後は、その方の元で約半年間技術を習得し、経営を引き継ぐ形で、平成30年1月に就農した。

① 就農から現在までの状況

<就農時>

- ・就農するにあたり、暖かい地域で穀物を栽培したいと思い、水田作を行うこととした。
- ・初年度から新規就農者助成金を活用した。
- ・当初機械は前経営者が使用していたものを購入し、その後は公庫の融資で更新等を行っている。

<現在>

- ・農地は必要に迫られ一部を購入。他の大部分は近隣の土地所有者から賃借している。
- ・水稲作のみなので、現在の米の販売価格の下落をどう乗り切るか苦慮している。
- ・農業に関する知識と経験が全くない中、トライアンドエラーを繰り返しながら現在に至っている。



トラクター

② これまで苦労した点

- ・農業経験がなかったことや、都市部からゆかりのない鹿児島県の農村部への移住だったので、全てが苦労であった。
- ・生活習慣や世代の違いから、地域の人達とコミュニケーションを取ることに苦労した。
- ・儲かる農業にすることは、かなりの努力が必要と感じている。

③ 就農して良かった点

- ・都市部にはない自然が多く空気の澄んだ地方に住むことで、心も体も健康的になった。
- ・自分の時間配分で仕事ができることに喜びを感じている。

④ 今後の目標

- ・米需要の減少等で、米価の下落が続く昨今の事情から、利益率向上やコスト削減を考慮する必要がある。
- ・今の労働力事情では現在の経営規模が限界に近く、今後は借地のほ場条件にもこだわる必要性を感じている。
- ・資材の高騰もあり、経営面の安定性を考え、他の作物の導入も考えていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・未経験者が就農する場合は、法人等で経験を積んで、十分な資金の準備ができた段階で考えるべき。
- ・「土いじりがしたい」、「田舎暮らしがしたい」等の思いが強く、困難や苦労をいとわない人は挑戦してほしい。

〈基本情報〉

所在地：始良市

年齢：37歳（R元.6就農）

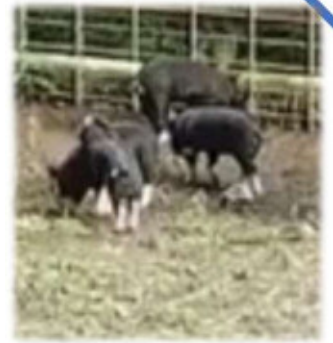
〈経営概要〉

品目：養豚（一貫経営）

経営規模：パークシャー種

繁殖雌豚 15頭、種雄豚 1頭

肥育豚 約160頭 一部預託有り



放牧場

〈就農のきっかけ〉

母親の知人に紹介された養豚農家で手伝いをする中で、夢であった養豚経営を自ら行いたいと思うようになり、令和元年6月に就農した。

① 就農から現在までの状況

〈就農時〉

- ・令和元年6月に農場一式（畜舎、堆肥舎等含む、敷地面積6,000坪）を取得し就農した。
- ・経営開始後は、新規就農者助成金を活用し経営安定を図っている。
- ・母豚のストールフリーによる飼養・放牧を行っている。

〈現在〉

- ・養豚を身近に感じてもらう目的で、私の子供が通う幼稚園の園児を対象とした、黒豚とのふれあいイベントを開催している。
- ・獣医薬品に頼らない養豚経営を実践している。



パークシャー種

② これまで苦労した点

- ・就農直後は出荷がないことから収入がなく、資金繰りに苦労した。また、販路も少なかったことから将来に不安があった。
- ・販売先を確保することに苦労した。

③ 就農して良かった点

- ・母豚を放牧するなど、ストールフリーでの飼養を行っており、自分が好きなスタイルでの養豚が出来ている。
- ・飲食店等に直接販売することにより、お客様からダイレクトに意見を聞くことができる。
- ・養豚業を始めてから、いろんな業種の方々とのお付き合いが増えて意見が聞けるようになった。
- ・豚が好きでこの道を選んだことから、豚の穏やかな表情を見ている時に充足感を感じる。

④ 今後の目標

- ・将来的には、預託をやめて、全て自分で飼養したいと思っており、そのために母豚を20頭規模にまで増頭したい。
- ・現在は舎飼いをしている肥育豚も放牧で育てていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・私は養豚農場勤務の経験があり、養豚業にすぐに取り組みましたが、就農前の技術習得は大切だと思う。

＜基本情報＞

所在地：さつま町
年齢：41歳（H30.8就農）

＜経営概要＞

品目：施設野菜
面積：トマト 10a



直売所向け完熟トマト

＜就農のきっかけ＞

就農前は関東で書店員、その前はLSIシステムエンジニアとして勤務していたが、元々モノづくりに興味を持っていたこともあり、製品を生産するまでの全工程に携われる農業を始めたいと思い、祖父のふるさとさつま町の役場に相談したところ、農地と家を借りることができ、両親とともに移住した。県立農業大学校で10ヶ月間のチャレンジ研修を受け、就農前の3ヶ月間（4月～7月）は近所のトマト農家を手伝い、平成30年8月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・当初は借り入れた10aのハウスでイチゴの栽培をやりたかったが、新規就農者一人の労働力で管理することは厳しいのではないかと町の担当者からの助言もあり、相談の結果、トマト栽培での就農を決意した。
- ・農業用ハウスは、役場とJAの仲介により、高齢で離農された農家から借りることができた。軽トラック、動力噴霧機は就農時に新規で購入したが、トラクターの使用は年に数回なので、近所の農家から借りている。住家はハウス近くの空き家を集落の方の紹介で借りることができた。



ハウス内のトマト

＜現在＞

- ・収穫量は初年度が18トン、昨年度は19トン。今年はまだ全ての収穫が終わっていないが、誘引、摘葉等の作業が遅れたため適切な薬剤散布が行えず、害虫（コナジラミ）の発生が多く、15トン程度になる見込みである。

② これまで苦労した点

- ・就農前4月～7月にトマト農家を手伝った時は、収穫後期の作業しか体験できなかったため、就農時の定植作業では何をどうやったらいいのか全く分からない状況であったが、JAの営農指導員や近所のベテラン農家に作業の手順などを教わりながら何とか進めることができた。

③ 就農して良かった点

- ・自分が思っていたような綺麗なトマトが出来た時の喜び。
- ・勤めていた時のように時間に縛られることがなく、自分で自由に時間を調整できる。

④ 今後の目標

- ・トマトの作付面積を増やすこと。
- ・来年は今年の経験を踏まえ優先作業を見直し、害虫発生を徹底的に抑えること。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・自分のようにIターンで農業を始める者は、とにかく町の担当者に本気度をアピールしなければ認められない。就農後は地域との交流が一番大事だと感じた。それができないと教えてくれる人はいないし、続けることもできない。

<基本情報>

所在地：長島町

年齢：36歳（H30.8就農）

<経営概要>

品目：ばれいしょ

面積：ばれいしょ 1.8ha

（漁業：アオサ養殖、もじゃこ漁、瀬渡し船）



アオサの養殖作業

<就農のきっかけ>

高校卒業後、海上自衛隊に入隊し13年間勤務した。その間イージス艦の乗務員として船に乗った時期もあり誇りを持って勤務していたが、なかなか自分の時間が持てなかった。そのため、父親が営む漁業を引き継ぐことに加え、農業もやってみたいとの思いで、平成30年8月に就農した。

① 就農から現在までの状況**<就農時>**

- ・農地は親の知人や高齢のために農業ができなくなった生産者から20aを購入し、80aは借地。その他に借り入れた山を開拓し、畑として整備した。農業機械は、ばれいしょ堀機やトラクター等、全て中古品を購入した。
- ・就農前には農業について学校や研修所等で学んだことが全くなかったことから、就農と同時に普及指導員に畝幅や土上げなどの栽培管理、病気への対応などの悩みを相談している。

<現在>

- ・病気を抑えるため土壌診断を年1回行っている。土壌中の微生物を増加させるために、有機カルシウムとして牡蠣殻をすき込んでいる。その他、春作と秋作の間に緑肥としてソルゴーやヒマワリを植えているが、ヒマワリは軟腐病にも効果があると感じている。

カラフルなばれいしょ
（ノーザンルビー、シャドークイーン等）**② これまで苦労した点**

- ・就農当初、経営耕地面積は0.8haから始めたが、耕地の一部には、数年間作付けされていない畑もあり、発芽障害や疫病の被害が大きかったこと。当時は効果的な防除のタイミングが掴めていなかったことが原因だったと感じている。
- ・就農2年目はばれいしょ価格の暴落で農業収支が赤字となったこと。漁業による収入でなんとか補填することができた。

③ 就農して良かった点

- ・自分が頑張ることでばれいしょの品質が向上し、収量も増えてきている点に喜びを感じている。また年々、農業収入の比率が上がっており、昨年の収入割合は農業が7割で漁業が3割であった。ばれいしょはふるさと納税返礼品になっており、納税者の方からの評価が高い時には、頑張ろうという意欲が湧いてくる。
- ・海上自衛隊に勤務していた時より、自分の時間を得ることができている。

④ 今後の目標

- ・経営耕地面積の拡大を常に考えており、現在より1haほど拡大したい。
- ・4Hクラブに加入しており、先日、青年農業士に認定された。長島は酸性土壌のため作物が限られてしまうが、メンバーと試行錯誤しながらばれいしょやかんしょに代わる作物を見つけていきたい。
- ・青果用として出荷できない規格外のばれいしょをレトルト食品や肉じゃが、コロッケ等の原料として有効利用できないか模索中で、現在、製造業者と話を進めている。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・作物を育てられる環境があれば、作りながら学びながらの営農でも良いと思う。失敗から学ぶことも多いので、色々やってみること。
- ・就農前のある程度の資金の準備は必要だと感じている。就農後は経費を掛けすぎないように収支をよく検討していくことが大事である。